

## 早めの受診で、病気を軽いうちに治しましょう！



秋田厚生医療センター 消化器外科

しばた さとし  
院長 柴田 聡

# 健康 コラム

夜間や休日、急病の患者さんを診るために、病院は救急外来を開いています。

とある日曜の午後、秋田厚生医療センター救急外来にやってきたAさん。お腹が痛くて、腰を伸ばして歩けないようです。診察室では、AさんとS医師が向かい合っていて、何やら深刻な雰囲気です。二人の会話に耳を傾けてみましょう…

### 【診察室】

S医師「今日はどうされましたか？」

Aさん「4日前にお腹のこの辺が痛くなって、昨日の夜からお腹全体に広がってきました。それで我慢できなくて…」

S医師「4日前からですか！今までよく我慢しましたね～。頑張りましたね～。今後はあまり我慢せずに病院に来てくださいね。さて、それでは診察しましょう」

S医師は一見冷静に見えますが、内心は違うようです。先生の心の中を覗いてみましょう…

S医師心の声『え～！4日前からということは、相当進んでいるかも…。もっと早く来てくれたら薬ですぐ治ったのに…。残念！これは緊急手術かも。せめて、昨日来てくれたら…』

S医師はAさんの診察、検査を進めた結果、やはり緊急手術が必要と判断し、その準備を始めたのでした。

ここで、ちょっと想像してみましょう。もしも時計の針を戻すことができたなら…

### 【もしも、3日早く受診していたら…】

S医師「昨日から痛くなったんですね。確かに、お腹のココに炎症があります。ただ、まだ軽い状態なので、薬で散らしましょう。抗生物質の飲み薬を出しますから、今日から飲んでくださいね。明日以降、良くならない場合は、もう一度受診してください」

Aさんの症状は翌日から軽くなり、数日で治りました。結局、病院受診は1回で済みました！よかった よかった。

### 【もしも、1日早く受診していたら…】

S医師「3日前から痛くなったんですね。お腹のココにひどい炎症がありますね。入院して点滴の治療を開始しましょう。その後の状態によっては、手術治療など、必要になるかもしれません」

Aさんの症状は、点滴の治療で良くなり、手術せずに済みました。退院は1週間後。大ごとにならなくてよかった。

### 【実際に起こったこと】

S医師「お腹のココに炎症があったのですが、今は周りに広がってしまい、お腹が膿だらけ、腹膜炎の状態です。お薬だけでは治りません。緊急手術が必要です」

Aさんは、すぐ入院し、その日のうちに全身麻酔で手術を受けました。腹膜炎がひどかったので、お腹の中にパイプ(ドレーン)が3本入った状態で手術は終了しました。回復するにつれ、パイプが一本ずつ抜かれ、手術後6日目から“食事”が始まり、手術後20日で退院しました。お腹に15cmのキズが残っていて、少し突っ張ります。パイプが入っている間、自由に動けなかったため、足腰が少し弱ってしまいました…。

さて、皆さんいかがですか？このお話で想定した病気は、急性虫垂炎(いわゆる“盲腸”)、または憩室炎等です。もちろん、お腹が痛くなると必ずこうなるということではありません。Aさんのような方は少数派です。心配しすぎは良くありませんが、「いつもと違うな」「なんか変だ」と感じたら、かかりつけの先生、または当院を早めに受診してください。早めの受診で、軽いうちに治しましょう。